

日本植物園協会ナショナルコレクション申請書

新規申請

更新申請(認定番号 認定期間 年 月 日～ 年 月 日)
(いずれかに)

■申請年月日 2025年 11月 7日

■コレクションのテーマ

京都府立植物園のヘリテージツリーズ(歴史遺産樹木)

■申請団体・申請者名

京都府立植物園

■申請団体の代表者名(個人での申請の場合は不要)

非公開

■申請団体・申請者の連絡先(住所、電話、メールアドレス)

非公開

■コレクションの所在地(コレクションが分散している場合は主たる所在地)

京都府京都市左京区下鴨半木町

■現地審査希望時期

2025年 10月 30日 ～ 2026年 3月 30日

希望する理由:

2026年5月の日本植物園協会鳥取大会での認定を目指し、逆算してこの期間にナショナルコレクション委員による現地審査をお願いすることが相応しいと考えるため。

■コレクションの概要

京都府立植物園は、1924年(大正13年)に「大典記念京都植物園」として開園した日本最古の公立総合植物園で100年以上の歴史がある。年間来園者数は90万人を超え、植物の多様性と文化的価値を広く社会に発信する場としての役割を果たしている。

当園は鞍馬口から鞍馬・大原・比叡山へと抜ける洛外の賀茂川左岸に位置し、造成される以前古くから「流木の森」と呼ばれる森林と田畑が広がる地帯であった。園の造成は開園に先立ち1917年(大正6年)頃から始まった。100年以上の歴史の中で、当園は1934年(昭和9年)の室戸台風や、1935年(昭和10年)の京都大水害といった自然災害に見舞われ、また、第二次世界大戦終戦後(1945年以降)には、進駐軍の将校用住宅地として園の敷地が接収された時期もあった(1946～1957年)。そうした幾多の災害や時代の変遷を乗り越えてきた、歴史的価値を有する樹木が今もなお息づいている。これらについて当園では、「ヘリテージツリーズ」と位置づける新たなカテゴリーを創設。開園100周年を迎えた2024年より、新たな見どころとして広く紹介する運びとなった。

「ヘリテージツリーズ(歴史遺産樹木)」とは、京都府立植物園における造成史、および植物文化の継承を目的として、文化的・学術的価値の高い樹木個体を体系的に選定・保存する取り組みである。

その選定にあたっては、園独自の三つの基準(①造成される以前から当地に自生していた原植生の個体、②開園時に植栽され、樹齢100年を超える古木、③日本国内に初めて導入された歴史的意義を有する樹木)を設け、これに基づいて樹木の指定を行っている。

本コレクションは36属38種215個体から構成されており、園内各所に植栽されている。代表的な個体としては、賀茂川左岸の原植生を今に伝えるアキニレや1924年の開園時に植栽されたヒマラヤスギ、および日本初導入とされるシダレエンジュなどが挙げられる。これらの樹木は、園の造成史や植物導入史を物語る「生きた文化資源」として位置づけられ、来園者にその価値を伝える展示・解説を行っている。

■申請者が保有するコレクションの種数、品種数、個体数(保有植物リストおよび写真は、別紙「保有植物リスト・写真ファイル作成要領」にしたがい提出)

種数：36属38種215個体

ニワウルシ(2個体)、ヒマラヤスギ(9個体)、クスノキ(55個体)、アメリカヤマボウシ(5個体)、カイヅカイブキ(32個体)、タイワンユサン(2個体)、メタセコイア(12個体)、ランシンボク(3個体)、ゴヨウマツ(2個体)、イヌカラマツ(3個体)、シダレエンジュ(12個体)、ケヤキ(52個体)が複数個体で、それ以外は1個体ずつ、計215個体

■申請するコレクションのこれまで報告されている総数と申請者が保有する数

ヘリテージツリーのコレクションは、キュー植物園の約12種類、シンガポール植物園の約60種類などが報告されている。当園の保有数は36属38種。

(引用文献)

コロナ・ブックス編集部編(2019)『英国キュー王立植物園 庭園と植物画の旅』平凡社 P44

<https://www.nparks.gov.sg/sbg/our-gardens/heritage-trees> (2026.02.15 閲覧)

■コレクションの栽培管理状況(所在地が分散している場合は、ここに全てを列記)

園内各所(約 24 ヘクタール)において栽培・展示を行っている。

管理は技術課のスタッフ 25 名のうち、樹木係の7名が中心となって直営で行っている。

直営スタッフで対応のできない特殊な技術や機材を要する管理作業については京都府内の造園業者へ委託している。

■コレクションの導入記録及びデータベース化の状況

前述のような災害などもあり、大正期～1970 年代頃までの記録は断片的に残っているにすぎない。しかしながら、時代ごとの保有植物名はその時々々の植物目録により確認することができ、口伝も残っているため、ある程度の導入期や導入元の推測は可能である。最も信頼に足る一次資料は、用箋に手書きの「昭和 9 年以降植樹台帳」があり、その他には戦前からの職員である伊佐義郎氏のメモ「伊佐先生園内樹木解説平成 3 年盛夏」や、稲沢メモと呼ぶ職員作成の「樹木類植栽地」目録などがある。

また、日本初導入の根拠に上原敬二「樹木大図説」があり、シナマンサク、ニイタカカマツカ、アメリカハリグワなどが記載されている。

2014 年(平成 26 年)には、地理情報システム(GIS)により位置情報を管理するソフト(Arc GIS)を用いた植栽位置図が完成し、随時アップデートを進めることで最新の位置情報データを把握している。また、誰でも自分のスマートフォン地図アプリなどによって個体位置までたどり着けるように、QR コード付きリストをウェブ上にて公開している。

■コレクションのラベル表記状況(栽培管理用ラベルや展示用サイン・ラベルなど)

・管理用には、個体導入番号をアルミ製の札に刻印し、ステンレス製のワイヤーで各個体の枝や幹に取り付け、植栽位置図や導入記録と共に管理している。

・来園者用には、学名、和名、品種名、科名および簡単な品種特性の説明文を記したアクリルパネル製ラベルを作成し設置している。ヘリテージツリーズについては、樹種ごと個別に A3 パネルサインを設置している。

■コレクションへの協力団体・協力者(種名の同定、導入など)

住友林業株式会社筑波研究所(増殖技術の提供など)

■コレクションの長期保存のための方策と体制(増殖、栽培管理上の工夫、栽培技術者や後継者の育成、危険分散等)

○増殖

現在バックアップ用の苗の保存・保管は行っていない。今後リスク管理のため増殖を検討していきたい。クローン増殖が可能な樹種は挿し木や接ぎ木、バイオ技術などによりクローン増殖を中心に行いたい。なお、クスノキやニワウルシなどは園内で実生株が生じているが、遺伝情報保護の観点や個体番号をつけて樹木を登録管理しているため、これらの個体については適宜除去を行っている。

○栽培管理上の工夫

個体ごとに、樹木の生理的・生態的要求に配慮し、周辺に栽培・展示される植物を含めた環境全体を通じて、生育環境の改善と維持に努めている。

多い日には2万人近い来園者が訪れるため、一部の樹種では、踏圧の影響が大きく及ぶことがある。そのため、冬季には根系の伸長範囲における土壌の締め固めを緩和する目的で、エアースコップを用いた土壌改良を実施しており、その取り組みの過程は樹木医学会の機関紙にて報告した。

(参考文献)

中井貞, (2016) 京都府立植物園におけるサクラのエアースコップを用いた土壌改良作業. 樹木医学研究 20 (1): 60-65. (<https://cir.nii.ac.jp/crid/1390845712981146752>)

○栽培技術者や後継者の育成

現在、当園の管理は府職員であるスタッフにより行われており、園内樹木についても直営で管理しているため、これまで蓄積された経験や知識を活かして、現場に合ったきめ細かい管理が可能となっている。またスタッフの管理継続学習を行うことにより、管理水準を保つと同時に将来への栽培技術の継承を進めている。

今後とも園設置者である府組織の中で、中長期的な視点からの現在の管理体制維持の重要性をアピールし、後継者の維持や育成を図っていく。

○危険分散

現在コレクションの後継樹育成などは行っていない。

今後は個体ごとの育成状況を見極めながら、必要に応じてリスク分散のための増殖を検討していく。その際には、サポーター企業として協力関係にある住友林業株式会社筑波研究所が有するバイオ増殖技術などを活用して、現有個体のクローンを中心に増殖するなど、遺伝情報保全も視野に入れたい。

■コレクションの公開の現状と今後の方針、これまでの広報・利用実績(研究等を含む)

○公開の現状

コレクションは原則、園内各所に植栽・栽培管理しており、常時来園者に公開している。

○今後の方針

本コレクション以外にも、一次資料に導入・植栽の記録は残されていないものの、写真資料等により戦前から園内に存在していたことが確認できる個体がある。これらについても、今後は追加指定の対象とし、コレクションの体系化および拡充を進める予定である。

○これまでの広報

- ・公式ホームページにて公開している。
- ・2024/1/24 京都新聞記事掲載。
- ・2024/3/6 読売新聞掲載。
- ・2024/11/10 令和6年度近畿地区樹木医講演会、中井貞「100年の歴史ある植物園には樹齢100年の樹木がある」
- ・2025/11/27 京都学ラウンジミニ講座「府立植物園中井貞、次の100年創生に向けて【植物園のヘリテージツリーについて】」

○利用実績

- ・生命科学分野での映像、イラストなどを紹介するポータルサイト「TogoTV」
(<https://togotv.dbcls.jp/>)において「京都府立植物園のヘリテージツリーズ」というコンテンツを立ち上げ、本コレクションを利用したイラストを紹介する予定。

※認定されたナショナルコレクションの情報(提出いただいた申請書や写真を含め、非公開の文字情報および個人情報を除く全てが対象)は、当協会のナショナルコレクション事業(ホームページ、啓発書類、報道資料シンポジウムやポスター等)で、認定者に事前通知なく使用できるものとします。また、本事業以外での使用(第三者への情報の公開や写真提供等)については、事前に申請者との協議によって決定することとします。以上の使用範囲に同意の上、申請をお願いします。

◎別紙「申請書記入要領」および「認定コレクション申請書記入例」(<http://www.syokubutsuen-kyokai.jp/nc/>)を参考に詳しく記載してください。必要に応じて行数を増減してご記入ください。申請書、保有植物リストや写真データ時の作成や送付について、ご不明な点があれば、お気軽にナショナルコレクション委員会までお問い合わせください。

◎申請書の専門的な内容やデータの扱いや入力方法等につきましては、委員会でお手伝いすることも可能です。

◎申請書は郵送またはメールで、また保有植物リストおよび写真は CD-R または USB メモリなどのディスク媒体をナショナルコレクション委員会宛に郵送してください。なお、媒体は返却しません。

公益社団法人日本植物園協会 事務局内 ナショナルコレクション委員会

〒114-0014 東京都北区田端 1-15-11 ティーハイムアサカ 201

TEL:03-5685-1431 FAX:03-5685-1453

E-mail: jabg-nc@syokubutsuen-kyokai.jp